

令和6年度 第1回 札幌市 学校検尿検討委員会議事録（要旨）

日 時：令和6年9月13日（金） 午後7時00分～午後8時40分

会 場：札幌市教育委員会 4階 委員会会議室

出席委員：八十嶋委員長、佐野副委員長、荒木委員、岡本委員、長岡委員

事務局：砂村教育推進課長、山角保健指導担当係長、内潟職員

1 議事

(1) 令和6年度の学校検尿の報告

ア 事務局から、令和6年度の学校検尿について、下記の2点について報告した。

(ア) 令和6年度学校検尿の実施方法について

1次・2次検査は定性検査、2次精密検査として定量検査を実施。このうち、糖が陽性の場合、2次検査は行わず、すぐに糖の定量検査とケトン体の定性検査を行っている。

(イ) 令和6年度学校検尿結果（会議開催日時点）

イ 委員から、事務局の報告に対して以下のような意見があった。

- ・令和5年度より、潜血の陽性率が減っている。実施方法が変更になったことが影響しているか、継続的にデータをみていく必要がある。
- ・現在の集計方法では、精密検査対象者の中で、新しく病名が付いた者は把握できているが、病院へ行っていないのか、異常なしの者がどれくらいいたのか把握できていない。医療機関では、「異常なし」も重要な診断であるため、把握できるようにするとよい。
- ・前回の会議（令和6年3月）以降、精密検査受検者数・受診者割合は大きく増加していない。令和5年度は実施時期の影響が大きかったのであろう。

(2) 今後の学校検尿について

ア 現在の課題の整理として、下記の4点について話題とし、委員からそれぞれ以下のような意見があった。

(ア) 今後の学校検尿について

- ・糖に関してはケトンの検査も実施しており、よい。
- ・クレアチニン比の検査を実施できるとよい。
- ・現在の判定基準では、かかりつけ医と専門医で判定しているが、専門医に一括してはどうか。
⇒専門医に一括した場合、患者数が増えたり、専門医の中で受診者数に偏りがあったりすると、負担が大きくなる可能性がある。

(イ) 運営面として、学校での日程の確保に課題

- ・学校の状況は理解できるが、続けていただきたい。

- ・学校現場で回収する大変さがあると考え、クレアチニン定量を実施し、回数を少なくする方法も検討してよいのではないかな。
- ・回数を少なくし、1回で終了する方法は魅力的だが、他の地区では実施されていない。2次検査まで実施するきまりはあるのか。
⇒法律や通知にはきまりはない。日本学校保健会「学校検尿のすべて」には、精密検査対象者が3分の1から6分の1まで減少することが記載されており、他都市でも2次検査まで実施している。（事務局）
- ・検査回数を減らすということは将来的な目標であろう。

（ウ） 精密検査受診率の向上

- ・精密検査受診率の向上については、受診しないといけないということを、色々な面で提示していく必要がある。
- ・専門医が学校検尿で要精検となったことの意義について教育的な話をするなどの方法もある。
- ・連絡書を医療機関が回収し、郵送や、QRコードなどで送信し、集計するという方法もあるかもしれない。それにより、学校毎の受診率等が明らかとなり、その結果を踏まえた受診勧奨につながるのではないかな。
- ・医療機関より精密検査結果を報告いただく方法は、ご負担ではないかな（事務局）
⇒記入や郵送については、負担が増えるということはない。現状どれくらい連絡書を回収できているのかと、郵送費等のコストをかけて回収することとのバランスを検討する必要がある。

（エ） 精度向上に係り、今後把握していく情報の整理

- ・精密検査受診者の異常なしの割合が重要。異常なしだった場合に、1次検査の実施であればどうであったのかを検査結果と紐づけ、検証していくことが必要。
- ・学校現場で検査結果の回収率を上げるには、連絡書をマークシートのような形にし、機械的にするなど、負担をかけずに今後の運営を考えると重要なデータが得られるのではないかな。
- ・かかりつけ医と判定された者が、かかりつけ医を受診しているのかどうかという検証も必要。

イ 令和7年度に向けた検討事項について

(ア) 検査方法について、委員から以下のような意見があった。

- ・今の段階では、2次検査を行わず、1次検査のみの実施とする根拠がない。しかし、将来的に回数をシンプルにしていくことを考えるために、データを積み上げて検討を行うことが必要。
- ・現行通り回収は3回、2次検査の陽性者に対して定量検査、蛋白陽性の場合にクレアチニン比を実施する方法はいかがか。
- ・現在の基準にクレアチニン比を加えた場合、精密検査の対象となる人数がどれだけ変化するかということや、重症疾患を見逃していないか検証が必要。クレアチニン比を実施すると、精密検査受診対象者は減ると予想している。
- ・蛋白の定量値と、クレアチニン定量の具体的な数字と、尿蛋白クレアチニン比の数字があると、情報が多くてよい。
- ・コスト面を考えると、クレアチニン比の定性検査という方法もあるのではないかな。
⇒クレアチニン値の正確な数字は出てこない。
⇒スクリーニングとしてどう考えるか検討の余地はあるが、クレアチニン比のほうが意義深い。
- ・判定基準については、来年すぐ変更するのではなく、来年は従来の基準で実施し、データを積み上げることににより、検討していけるとよい。
- ・クレアチニン比があることで、数値により専門医で腎精検を行うかどうか等の参考になるため、結果のお知らせには併記するとよい。
- ・糖に関して、早朝尿だとわからないこと・早期発見が難しいことも多いのではないかな。ただ、学校検尿では日中の尿を採尿するのは難しく、どれくらい意義があるのかな。
⇒データになっていないので難しいが、学校検尿としては、今のところ早朝尿で実施する形で、問題は起きていない。

(3) 次回の学校検尿検討委員会開催時期について

今年度内に開催予定。開催方法については、書面開催やオンライン開催等も検討する。